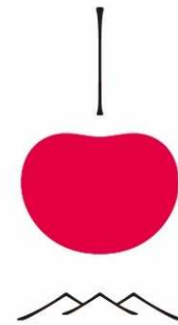
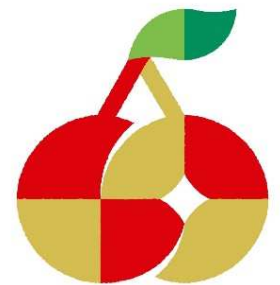


## (5) 園芸大国推進課



紅がや  
王がたま



いちずに、かじつ。  
**150<sup>th</sup>**  
YAMAGATA FRUITS

## 概要

- 「やまがたフルーツ150周年」のメインイベントの開催、多様な手法によるPR、市町村・民間事業者等と連携した取組みの実施

予算額（当初）：99,254千円

事業期間：令和7年度～

## 背景／課題

- ・「さくらんぼを核とした情報発信実行計画」に基づき、令和5年度～令和7年度は県産フルーツの集中プロモーションを展開
- ・令和6年度は、150周年のロゴマークやポータルサイトを準備し、イベントの試行やタイアップ企画の発信等を実施
- ・やまがたフルーツ150周年本番にあたり、県産フルーツの認知度向上等に資する取組みの強化が必要。



## 事業内容

- 1 県内イベント等
  - ・さくらんぼメモリアルフェスタ（6月）、やまがたフルーツEXPO（8月）の開催、市町村のイベントとの連携など
- 2 県外イベント等
  - ・首都圏のイベントへの出展、流しさくらんぼの実施など
- 3 各種媒体でのPR
  - ・公式ポータルサイト・Instagramでの発信、リーフレットの作成、JR駅でのプロモーションなど
- 4 やまがた紅王のプロモーション
  - ・やまがた紅王応援大使の委嘱、大玉コンテストの開催など
- 5 山形県さくらんぼ＆フルーツPR協議会の運営

## 事業スキーム

山形県さくらんぼ＆フルーツPR協議会を主体としてメインイベントの開催等を行うほか、市町村や民間事業者によるタイアップ企画、県の農業・観光・産業施策と連携し、県を挙げた取組みを展開

### 山形県さくらんぼ＆フルーツPR協議会

- ・メインイベント(6月・8月)
- ・公式ポータルサイト・インスタなど

相互に  
連携

### 県の各種施策

- ・誘客キャンペーン
- ・首都圏でのトップセールス、物産展など

### タイアップ企画

- ・企業の新商品
- ・市町村のイベントやキャンペーンなど

## 事業目標

- ・やまがたフルーツ150周年を契機とした県産フルーツや果樹農業への理解醸成

## 問い合わせ先

- 担当課：園芸大国推進課  
やまがたフルーツ150周年推進室
- 電話：023-630-2414

## 概要

○150年にわたり先人たちが築いてきた果樹産地を次代へつないでいくため、気象災害対策技術の導入や開発・普及を進めるとともに、スマート農業を活用した未来型果樹栽培の推進等に取り組み、強靱で持続可能な果樹産地づくりを推進する

予算額（当初）：98,227千円

事業期間：令和7～10年度

## 背景／課題

### 【背景】

- ・温暖化の影響で極端な気象（降霜、高温、豪雨等）が多発し、生産が不安定化
- ・気象災害対策を実施している園地がまだ少ない



高温による品質低下 (R6)

- ・1経営体当たりの栽培面積は増加しているが、県全体の栽培面積は減少
- ・果樹生産者の減少と高齢化が進行



### 【課題】

- ・気象災害対策技術の導入が必要
- ・生産性向上に向けた作業の省力化や効率化が必要

## 事業内容

- 気候変動に強いさくらんぼ産地づくり
  - さくらんぼ高温対策技術の推進
    - 高温対策に必要な資材・設備の導入経費を支援（遮光資材、無加温ハウス、井戸、散水設備等）
    - 「佐藤錦」から晩生種等への品種転換を支援（やまがた紅王、紅秀峰、紅てまり等）
  - 気象災害に強く安全性の高い雨よけハウスの開発
    - ・新型雨よけハウスの建設コストの低減
    - ・既存ハウスを改良するタイプの開発・実証
  - 高温障害対策技術の開発と標高の高い地域でのさくらんぼ栽培の実証
    - 高温障害軽減技術の開発
      - ・黒球式熱中症計を活用した現地実証
      - ・高温リスクアラートの開発
    - 標高の高い地域でのさくらんぼ栽培の実証
- 生産性の高い果樹産地づくり
  - スマート農業を活用した未来型果樹園の検証
    - 普及性のあるスマート機器の実証・展示
    - 今後の果樹農業を支えるスマート技術の開発
    - 民間企業等と連携したスマート機器の開発

## 事業スキーム

- 気候変動に強いさくらんぼ産地づくり
  - さくらんぼ高温対策技術の推進
    - ①の事業 補助率：1/2（県1/3、市町村1/6）  
事業の流れ：県 → 市町村 → 生産者
    - ②の事業 補助単価：2,000円/本  
事業の流れ：県 → J A 等 → 生産者
  - 気象災害に強く安全性の高い雨よけハウスの開発
    - ・設置場所：県園芸農業研究所、東根市神町
  - 高温障害対策技術の開発と標高の高い地域でのさくらんぼ栽培の実証
    - ① 高温障害軽減技術の開発
      - ・実証場所：県内8園地、試験研究機関3か所
    - ② 標高の高い地域でのさくらんぼ栽培の実証
      - ・実証場所：山形市西蔵王、寒河江市幸生ほか
- 生産性の高い果樹産地づくり
  - スマート農業を活用した未来型果樹園の検証
    - ① 県園芸農業研究所に自動運搬ロボット、防除ロボット、草刈りロボット等を展示
    - ② 自動かん水システム、果皮色モニタリング技術の開発など
    - ③ さくらんぼのAI選果機の実用性検討など

## 事業目標

さくらんぼの高温対策に取り組む面積（令和6年度からの累計）  
R6（現状）182ha ⇒ R10（目標）800ha

## 問い合わせ先

- |          |                  |        |
|----------|------------------|--------|
| 1(1)     | ■担当課：園芸大国推進課     | 果樹振興係  |
|          | ■電話：023-630-2466 |        |
| 1(2)、(3) | ■担当課：農業技術環境課     | 研究調整担当 |
| 2(1)     | ■電話：023-630-2440 |        |

# 【継続】さくらんぼ大国オール山形戦略強化事業費

新しい地方経済・生活環境  
創生交付金活用事業

## 概要

- 「山形さくらんぼ」のブランドを支える気候変動に負けない安定生産対策と厳選出荷の徹底
- 高齢化や担い手不足に対応した軽労的仕立ての導入、品種構成の適性化による産地基盤の強化
- 「やまがた紅王」の早期ブランド化に向けた高品質大玉生産と知名度向上の推進
- 新興産地における地域の特色を活かした産地形成の促進(最上地域・庄内地域)

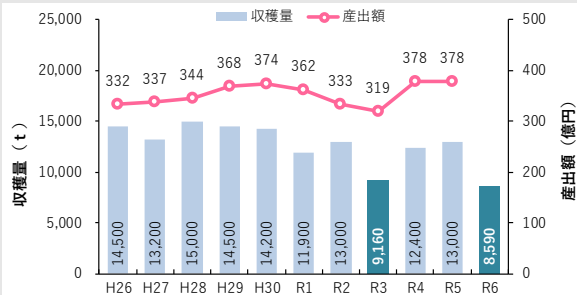
予算額（当初）：13,896千円

事業期間：令和5～7年度

## 背景／課題

### ■現状と課題

- 気候変動や労働力不足等の影響で、収穫量が不安定になっており、栽培面積も減少傾向
- 生産者が減少する中、一戸当たりの栽培面積が拡大しているが、労働力が不足
- 他産地でも大玉新品种がデビューするなど、産地間競争が激化



### ■対応

- 気候変動に対応した安定生産対策の指導と高品質・厳選出荷の周知徹底
- 労力不足や規模拡大に対応した軽労的な仕立て方の導入や品種構成の適性化
- オリジナル新品种「やまがた紅王」の高品質大玉生産の推進

## 事業内容

### 【「やまがた紅王」ブランド化プロジェクト】

- 高品質大玉生産と出荷基準の順守、認知度向上による早期ブランド化
- 大玉安定生産技術の開発、栽培マニュアルの活用
- 出荷量増加に伴うパッケージや流通方法の検討

### 【高品質安定生産プロジェクト】

- 気象変動に対応した結実対策、栽培管理の徹底
- 主産地における適期作業広報キャラバンの実施
- 生育・出荷状況に応じたタイムリーな情報発信

### 【厳選出荷プロジェクト】

- 出荷規格の順守による信頼される産地づくり
- 市場調査、集出荷施設等の巡回指導と情報発信

### 【認知度向上プロジェクト】

- 産地・消費地への情報発信の実施

### 【産地基盤強化プロジェクト】

- 軽労的な仕立て方の導入推進
- 品種構成の適性化による産地基盤強化

### 【新興産地拡大プロジェクト】

- 最上：遅場産地としてのブランド化、品種の多様化
- 庄内：観光さくらんぼ園を核とした産地づくりの推進

## 事業スキーム

### プロジェクトの実施体制

#### 山形さくらんぼブランド力強化推進協議会

「オール山形」体制でのブランド力強化に向けた取組みの推進  
【構成】農業団体(JA全農山形、主産地JA)、市場・流通関係団体(青果市場協会、園芸組合連合会、青果商組合連合会等)、観光果樹園団体、市町、県

#### 「やまがた紅王」ブランド化プロジェクト

「やまがた紅王」のブランド化に向けた取組みの推進

#### 高品質安定生産プロジェクト

気候変動に対応した結実対策と高品質生産の取組みの推進

#### 厳選出荷プロジェクト

品質を重視した厳選出荷の徹底によるブランド力強化

#### 認知度向上プロジェクト

産地・消費地への情報発信の強化  
オール山形でのGIの登録申請の検討

#### 産地基盤強化プロジェクト

高齢化の進行や後継者不足に対応した産地基盤の強化

#### 新興産地拡大プロジェクト

地域特色を活かした新たな産地形成の促進  
他産業との連携による付加価値の創出

最上地域

庄内地域

やまがたフルーツ150周年関連事業との連携



## 事業目標

- さくらんぼの産出額〔現状〕338億円(H24～R3の平年値)⇒〔目標〕360億円(R7)
- 「やまがた紅王」の生産拡大〔現状〕120ha(R3)⇒〔目標〕150ha(品種構成比5%)(R7)

## 問い合わせ先

- 担当課：園芸大国推進課 果樹振興係
- 電話：023-630-2466

# 【継続】果樹王国やまがた再生戦略推進事業費

## 概要

○抜本的な産地の再生・強靱化に向け、災害に強い産地形成や担い手の減少を見据えた産地形成を支援し、産地の維持・発展を図る

予算額(当初):164,044千円

事業期間:令和4~10年度

## 背景/課題

- 近年の頻発激甚化する自然災害により地域によっては壊滅的といえる甚大な被害が発生
- さらに、これまで中核を担ってきた担い手層の高齢化により、「果樹王国やまがた」の地位は揺らぎかねない状況
- 果樹は園地造成からの未収益期間を含め、本格収穫(成園化)までの期間が長い
- 生産性や作業効率の劣る園地が多く、果樹生産への力が低下し、園地継承が進まない

担い手の減少等に対応する先行投資型の園地整備を推進するための支援策と支援体制の整備が必要

## 事業内容

### 【かがやく果樹産地づくり強化事業】

ＪＡ、農地所有適格法人、担い手協議会等が行う先行投資型果樹団地整備に対する支援

- (1) 先行投資型果樹団地の整備支援
- (2) 整備後の未収益期間における苗木養成支援

### ＜補助率＞

- (1) 7/10以上〔国5/10、県2/10、市町村(任意)〕
- (2) 定額(国220千円/10aに同額上乘せ)

### ＜補助要件＞

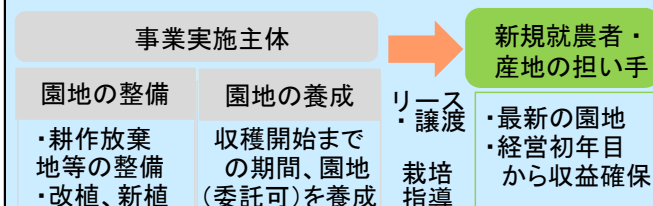
- ① 国庫事業※の計画が承認されていること
- ② 果樹再生戦略計画が承認されていること
- ③ 新たな担い手の参入計画があること

※次のいずれかの国庫事業の活用が必要

- ① 産地生産基盤パワーアップ事業(生産基盤強化対策)  
〔事業内容〕ハウスの補修・改修、農業機械の再整備・改良等
- ② 産地生産基盤パワーアップ事業(収益性向上対策)  
〔事業内容〕生産資材の導入、農業機械のリース導入等
- ③ 産地生産基盤パワーアップ事業(先導的取組支援)  
〔事業内容〕新植・改植、小規模園地整備等
- ④ 果樹経営支援対策事業  
〔事業内容〕新植・改植、小規模園地整備等

## 事業スキーム

### ＜かがやく果樹産地づくり強化事業イメージ＞



### 【事業実施主体】

公社、民間業者、農業者の組織する団体(ＪＡ、農地所有適格法人、任意団体等)

### 支援体制

果樹王国やまがた再生・強靱化協議会  
〈会長:知事〉

果樹産地再生戦略プロジェクト会議  
〈チームリーダー:農林水産部長〉

中核支援機関:  
やまがた農業支援センター

各総合支庁:  
産地再生戦略地域推進  
対策チーム  
〈産業経済部長〉

県、市町村、農業関係団体、生産者のほか、観光などの関連する産業分野を加えたオール山形体制で事業を推進

## 事業目標

先行投資型果樹団地の整備面積(累計) R5(現状)9ha ⇒ R10(目標)60ha

## 問い合わせ先

- 担当課:園芸大国推進課 果樹振興係
- 電話:023-630-2466

## 概要

〇度重なる気象災害や近年の生産資材価格の高騰を受け、離農を検討している生産者の営農継続を支援することで、加速化する栽培面積の減少を抑え、果樹産地の維持を図る。

予算額（2月補正）：100,000千円

事業期間：令和6年度（繰越）

## 背景／課題

### 【背景】

- 〇 極端な気象の頻発化により、生産が不安定化しており、機械等の更新費用を確保できない生産者が多い。
- 〇 近年の物価高騰の影響で、スピードスプレーヤ等の農業機械の価格は大幅に値上がりしている。
- 〇 果樹栽培に不可欠なスピードスプレーヤを更新できず、営農を断念する生産者が少なくない。

果樹栽培面積の減少

### 【課題】

- 〇 果樹農家の離農を防ぎ、栽培面積の減少を抑える必要がある。

## 事業内容

### 【事業実施主体】

- ・ 農業者団体（3戸以上の農業者で組織する団体）
- ・ 農業法人

### 【事業内容】

- ・ スピードスプレーヤの更新（中古を含む）

### 【補助率】

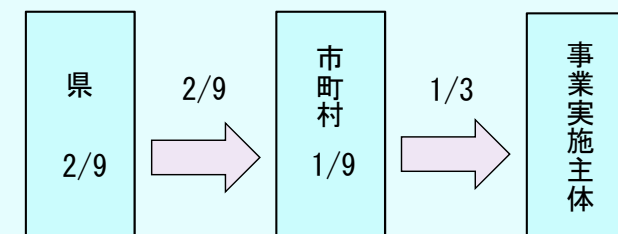
- ・ 1／3（県：2／9、市町村：1／9）

### 【補助要件】

- ・ 果樹の販売額又は所得額が増加すること
- ・ 更新前のスピードスプレーヤの使用年数が10年以上であること
- ・ 65歳以上で後継者が決まっていない場合は、継承に向けて、樹園地の情報を市町村・農業委員会等に提供すること
- ・ 導入するスピードスプレーヤの規格（散布能力）が経営規模に見合ったものであること
- ・ 整備したスピードスプレーヤについて、農機具共済や動産総合保険等の保険に加入すること

## 事業スキーム

### 【事業（補助金）の流れ】



### 【イメージ】

#### <現 状>

物価高騰の影響で  
更新が困難  
↓  
老朽化・故障増加  
↓  
離農を検討  
↓  
栽培面積の減少

3分の1  
補助  
↓  
更新

#### <ねらい>

営農継続  
↓  
栽培面積の維持  
↓  
産地の維持



## 事業目標

営農継続を支援することで、加速化する果樹栽培面積の減少を抑制する

## 問い合わせ先

- 担当課：園芸大国推進課 果樹振興係
- 電 話：023-630-2466

# 【新規】園芸やまがた産地発展サポート事業費

## 概要

○稼げる園芸農業の実現に向け、収益性向上や生産基盤強化に計画的に取り組む産地づくりを支援

予算額（当初）：310,974千円

事業期間：令和7～10年度

## 背景／課題

- 農業産出額全体の51.1% (R5) を占め、本県農業の牽引役である園芸産出額は全体として伸びている
- 平成30年産の米政策の見直し以降、野菜・花き等の高収益作物等への転換など、水田を最大限に活用する取組みが推進されている
- 高齢化が進む中、園芸産出額の更なる拡大を図るためには、産地を支える意欲的な生産者の規模拡大が必要である
- 農業者が減少傾向で推移している中、新規担い手の確保は喫緊の課題であり、次世代を担う意欲ある農業者の定着・経営発展のため、園芸産地の円滑な継承や新たな産地づくりが必要である
- 本県の園芸産地の更なる発展のため、施設・機械の導入等を支援し、競争力の高い産地を育成する
- 園芸作物の導入により水田農業の複合化を推進する

## 事業内容

### 1 園芸産地生産基盤パワーアップ事業（収益性向上タイプ）

園芸産地の収益性向上のため、農作業の効率化によるコスト削減や、設備の導入による高品質生産等の取組みを支援〔補助率：1/2〕

- ① 農業機械等のリース導入・取得
- ② さくらんぼ、ぶどうの雨よけ施設等の生産資材の導入等

### 2 園芸やまがた産地発展サポート事業

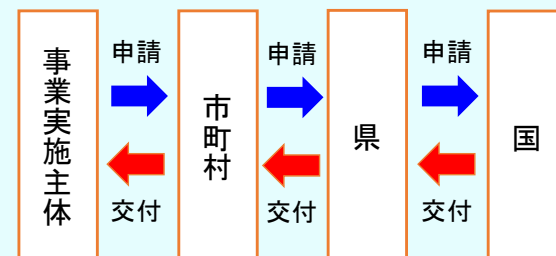
本県園芸農業を振興するうえで必要となる栽培施設や労働環境設備、気候変動対応設備、スマート農業関連機械の導入等を支援

〔補助率：1/2（県1/3、市町村1/6）〕  
〔県補助上限額：1,500千円～30,000千円〕

- ① 新産地育成（産地生産基盤パワーアップ事業が活用できない取組み）
- ② 農業栽培用ハウスの新設整備
- ③ 小規模土地基盤整備
- ④ 気候変動対応設備等の整備
- ⑤ スマート農業関連機械（環境モニタリング装置等）の導入
- ⑥ 労働環境設備（トイレ等）の導入
- ⑦ さくらんぼの省力仕立て施設整備

## 事業スキーム

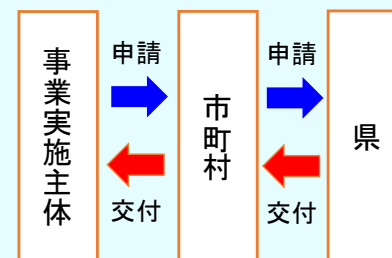
### 1 の事業



〔事業実施主体〕

地域協議会等が策定する「産地パワーアップ計画」に位置付けられる農業者団体、農業者等

### 2 の事業



〔事業実施主体〕

農業者団体、農業法人、農業協同組合等

## 事業目標

経営体当たり産出額 R2～R5平均（現状）  
 （果実）791万円 ⇒ 1,130万円  
 （野菜）630万円 ⇒ R10（目標） 900万円  
 （花き）630万円 ⇒ 780万円

## 問い合わせ先

- 担当課：園芸大国推進課 園芸団地推進担当
- 電話：023-630-2466

# 【継続】野菜産地ランクアッププロジェクト事業費

## 概要

- 高収益野菜は、ICTの活用や環境制御技術の導入により、栽培技術向上や技術継承の促進を図るとともに、気候変動対策等による生産基盤の強化を推進
- 土地利用型野菜等は、栽培技術の高位平準化や省力化・多収技術の導入促進を図り安定生産と更なる産地拡大を推進

予算額（当初）：6,327千円

事業期間：令和5～7年度

## 背景／課題

### ■現状

#### <高収益野菜>

- トマト・きゅうりでは、若手生産者が増加しており、早期技術習得と篤農家の技術継承が課題
- すいかでは、気候変動等による作柄の不安定化が発生

#### <土地利用型野菜>

- アスパラガスは、県内3地域において長期どり栽培が普及
- にらでは、高齢化に伴う生産量の減少が懸念  
新規生産者の栽培技術向上、多収技術の確立が課題

### ■課題解決に向けた取組み

#### <高収益野菜>

- トマト・きゅうりではハウス環境を可視化するICT技術を活用し、若手生産者の栽培技術早期習得や技術継承による生産性向上を推進
- すいかでは、高温対策技術の確立が急務

#### <土地利用型野菜>

- アスパラガスは、新規生産者の栽培技術の向上と、長期どり多収技術の確立が急務
- にらは、新品種と省力化技術を導入し、安定出荷と生産規模拡大を推進

## 事業内容

### 【県全体】

- トマトにおける「やまがた方式次世代施設園芸」の実証
  - ・生産性向上に向けた環境制御技術の実証、導入推進
  - ・トマト産地の若手・担い手のネットワーク化
- ICT等を活用したきゅうり等施設野菜品目の技術継承の推進
  - ・環境データ等活用による生産性向上と栽培管理技術の継承推進

### 【各総合支庁】

- 最上トマト産地強化（普及課実証）
  - ・大玉トマトの土壌病害対策の実証
  - ・ミニトマトの抑制栽培の実証
- 庄内アスパラガス産地強化（試験研究・普及課実証）
  - ・「ハウス長期どり栽培」の収量確保技術の確立
  - ・露地アスパラガスの総合的病害対策の推進
- 最上にらの産地強化（試験研究・普及課実証）
  - ・新品種を軸とした長期安定出荷体系の推進
  - ・越冬苗と移植機を組み合わせた省力体系の推進
- 置賜アスパラガスの産地強化（試験研究・普及課実証）
  - ・多様な担い手確保に向けた新たな栽培体系の実証と普及
  - ・春期収量向上に向けた立茎開始時期の検討
- 日本一夏すいか生産力強化（普及課実証）
  - ・高温対策技術の実証と普及
  - ・新規就農者の定着支援と若手生産者組織の活動支援

## 事業スキーム

### 県全体での取組み

県内全域の振興品目に対する支援

トマト産地強化PJ(G1)

データ駆動型農業・実践PJ(G9)

◆やまがた方式次世代施設園芸推進協議会

### 各総合支庁での取組み

地域ごとの振興品目に対する支援

庄内アスパラガス産地強化PJ(G2)

にら産地強化PJ(最上)(G3)

置賜アスパラガス産地強化PJ(G4)

最上トマト産地強化PJ(G10)

日本一夏すいか生産力強化PJ(G11)

試験研究と連携

試験研究と連携

## 事業目標

高収益野菜の産出額 R2(現状)144億円 ⇒ R7(目標)156億円

土地利用型野菜の産出額 R2(現状)36億円 ⇒ R7(目標)42億円

## 問い合わせ先

- 担当課：園芸大国推進課 野菜花き振興係
- 電話：023-630-2282